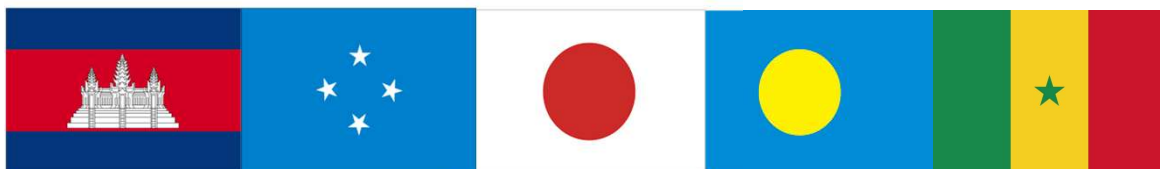


# オヤジたちの 国際貢献(20)

## 2025-2026



認定特定非営利活動法人

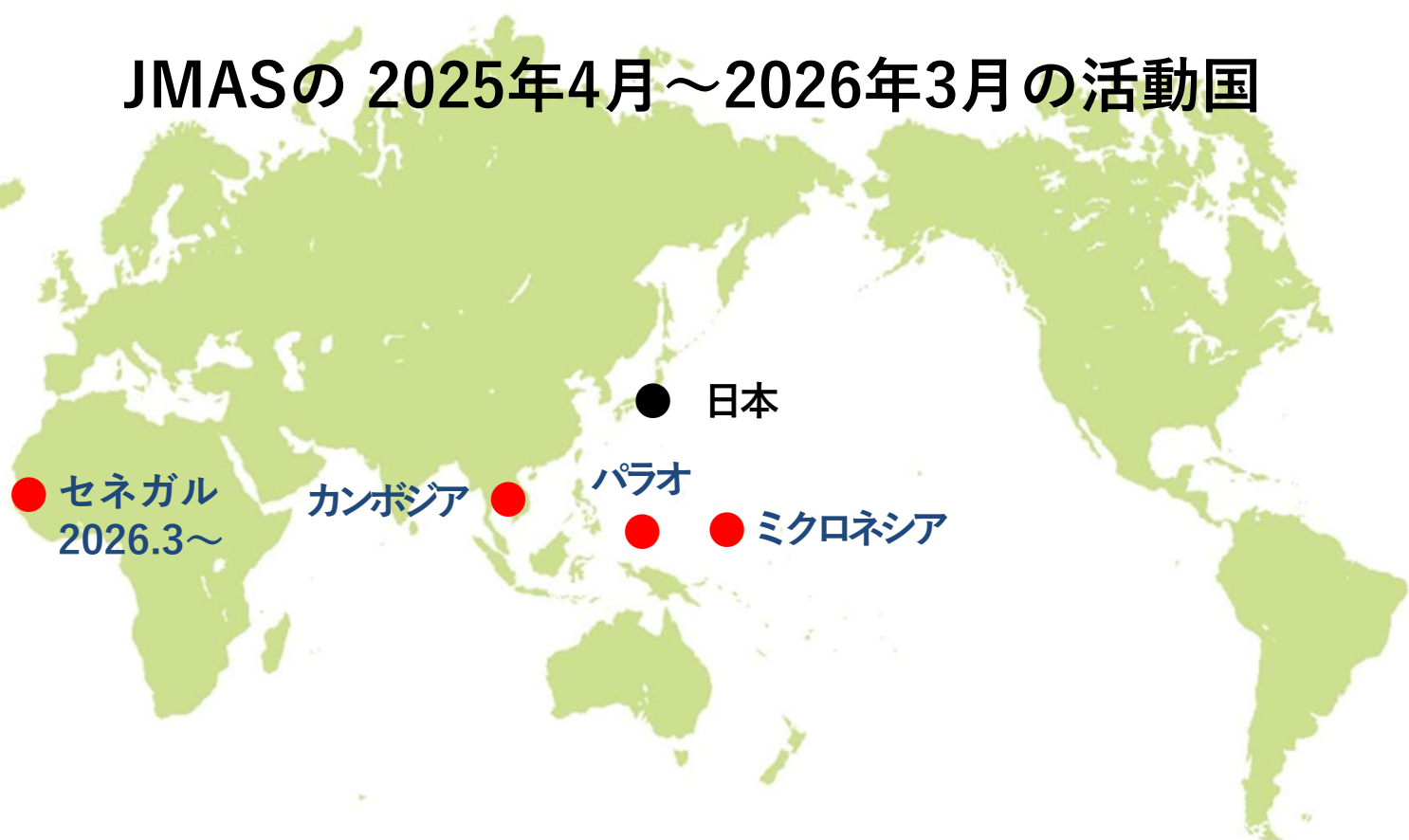
日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service

# ▶ 目次

- ▶ 発刊に寄せて
- ▶ 2025－2026概観
- ▶ カンボジア王国
- ▶ パラオ共和国
- ▶ ミクロネシア連邦
- ▶ セネガル共和国
- ▶ 本部
- ▶ 会勢概要
- ▶ ご支援のお願い
- ▶ 研修・見学・講演・取材申し込み受付

## JMASの2025年4月～2026年3月の活動国



# ▶ 発刊に寄せて



会長 山崎幸二

皆様には、平素から日本地雷処理を支援する会(JMAS)に対し各別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

「オヤジたちの国際貢献(20)」は、2025年度のJMASの活動を、写真と簡潔な記述によりご報告するものです。

2022年2月、ロシアによるウクライナ侵略は、世界を驚愕させ、罪のない多くの民間人の命を奪いました。断じて許すことのできないこの暴挙が発生してから、既に、4年が経過しました。この間、無数の地雷、弾道ミサイルや砲弾が使用され、豊かなウクライナの大地は荒廃し、約1000万人を超える国民が国内外に避難しました。平穏な日々の暮らしをしていた土地に残されたものは、想像を超える量の地雷や不発弾です。悲しい現実ですが、これまで世界各地で、このような悲惨な状況が繰り返し発生しています。戦争や紛争が終結した後も、住民の方々を苦しめ、子供たちの笑顔や将来を奪っています。

JMASは、微力ながらも、世界の平和、住民の方々の平穏な暮らしと地域の発展に貢献するため、地雷・不発弾等の爆発物の処理及び海洋の環境改善事業に取り組むとともに、農業支援事業、農地整備事業、道路補修、学校建設等の地域の復興を支援する活動を行っています。

現在、カンボジア、パラオ、ミクロネシアの3カ国に派遣していますが、今年から新たにセネガルが加わることになりました。現地代表を核心に専門家及びスタッフたちが、厳しい環境の中で、国際貢献という高い志を持ち、黙々とその使命を果たすために、住民の方々と共に汗を流しています。

JMASは、引き続き、日本人及びJMASとしての誇りを胸に、誠意と真心を持って活動し、皆様のご期待に応えていきたいと思っております。

今後とも、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



**理事長 岸川公彦**

「オヤジ達の国際貢献 (20)」をご覧頂き、誠にありがとうございます。JMAS理事長の岸川です。

まず初めに、日頃より当会の活動にご理解とご支援を賜っている会員の皆様、ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。おかげさまで、現在もカンボジア、パラオ、ミクロネシア、東京、そして本年より新たに西アフリカのセネガルにおいて、多くのJMASの要員が、現地パートナーと連携しつつ「安全で豊かな社会の創造」に向け、日々取り組んでいます。

他方、20年以上にわたりカンボジアで行ってきた機械力による地雷処理事業は、所期の目的を達成したことを受け、2026年2月をもって終了いたしました。カンボジアでは、地雷・不発弾の処理活動の現地実施主体であるCMAC（カンボジア地雷対策センター）が自立的・持続的な地雷・不発弾の処理活動を行うとともに、ウクライナをはじめとする諸国において、各種支援を行える経験と実績を有するまでに成長しています。このことは、JMASにとっても、大きな成果であり、カンボジアにおける活動が一つの節目を迎えたことの証左であると考えています。

これらを踏まえ、現在JMASでは「将来ビジョン2030」に基づき、今後の活動のあり方について検討を進めています。このような中、新たに本年よりチャレンジしているのが、セネガル共和国カザマンズ地方における地雷・不発弾の処理支援事業です。本事業は、内戦により取り残された地雷・不発弾が復興の大きな妨げとなっている同国南部ジガンシオール州において、現地の国際機関等と連携しつつ、現地事業主体であるセCNAMS（セネガル国家地雷対策センター）に対し能力構築支援を行うものであり、これまで20年以上にわたりカンボジアで培ってきた経験と知見を活用できる事業として、現在鋭意取り組んでいます。

また、戦争が未だ継続しているウクライナにおける復興支援事業についても調査研究等を通じ、今後の関与のあり方等について検討を進めています。さらに、近年関心が高まりつつある太平洋地域における復興支援事業についても、関係国や国際機関等と連携しつつ、事業化の可能性を模索しており、先般ソロモンで行われた防衛省の能力支援事業に弊会の要員を派遣したところです。

このように、JMASとして、時代の変革に応じた新たな事業の開拓に鋭意務めています。また、地雷処理や復興支援活動には、技術と経験の継続的な蓄積が不可欠です。現地スタッフの能力向上、機材の適正な整備、そしてコミュニティとの信頼構築にも引き続き取り組んで参ります。

以上、過去一年の軌跡と今後の展望について、紹介させて頂きました。私たちの活動は皆様のご支援によって成り立っています。今後とも弊会の活動に対するご理解、さらには資金面を含む多様な形でのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、現地で日々尽力している現地スタッフとパートナー、そして当会を支えてくださる全ての皆様に改めて敬意を表します。皆様と力を合わせ一歩一歩着実に前進してまいります。

# ▶2025-2026概観

## 1 世界の地雷不発弾（ERW※）問題の現状

(Landmine Monitor Report 2025)

オタワ条約加盟国	161の加盟国、31の未加盟国（2026年3月時点） エストニア、ラトビア、リトアニア、フィンランド、ポーランドが脱退
地雷汚染国	57の国と地域（32の加盟国、22の非加盟、3の地域）
地雷/*ERW被害者	2024年 死者1,945人、傷者4,235人、不明9人(子供1,701人含む) 職別（民間人5,385人、軍人593人、地雷除去員31人、不明270人） 原因別（対人地雷1,540人、対戦車地雷157人、IED2,077人、種類不明の地雷761人、クラスター弾58人、その他ERW等1,686人）
死傷者500人以上	非締約国：ミャンマー2,029人（最多）、シリア1,015人 締約国：アフガニスタン624人、ウクライナ293人
重度汚染国 （100km <sup>2</sup> 以上）	アフガニスタン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、カンボジア、エチオピア、イラク、トルコ、ウクライナ
2024年世界での地雷処理結果	除去締約国：土地解放面積1114.82km <sup>2</sup> （非技術調査863.13km <sup>2</sup> 、技術調査63.95km <sup>2</sup> 、除去168.49km <sup>2</sup> 対人地雷処理105,640個（参考：2023年土地解放面積693.91km <sup>2</sup> 、対人地雷処理 160,566個）
対人地雷使用者	締約国：ウクライナ 非締約国：ミャンマー、ロシア、イラン、北朝鮮
	武装集団：コロンビア、インド、ミャンマー、パキスタン、アフリカ・サヘル地域および隣接国
地雷除去完了	31の加盟国
処理資金額	2024年 約10億7,000万米ドル 2023年に比し、4,170万米ドル（4%）の増（2億5,240万米ドルをウクライナ活動に充当）
第5条完了状況 （2025年10月1日現在）及び期限延長申請の概要	2025年10月時点で除去完了義務のある国32ヶ国 2026年：クロアチア、モーリタニア、セルビア、タイ 2027年：エクアドル、エリトリア、ギニアビサウ、ソマリア、スーダン 2028年：キプロス、コンゴ、イラク、ナイジェリア、パレスチナ、スリランカ、イエメン、ブルキナファソ 2029年：アルゼンチン、ニジェール、ペルー 2030年：アフガニスタン、アンゴラ、カンボジア、チャド、コロンビア、エチオピア、南スーダン、トルコ、ジンバブエ 2032年：タジキスタン 2033年：ウクライナ
対人地雷生産国	イラン、インド、ミャンマー、パキスタン、ロシア、韓国、北朝鮮、キューバ、シンガポール、中国、ベトナム、アルメニア

※ERW（Explosive Remnants of War：爆発性戦争残存物）

## 2 JMAS 2025 – 2026活動概観

### (1) 全般

JMASは、カンボジア、パラオ、ミクロネシアの3ヶ国で地雷・不発弾戦没船に残る爆雷や油の回収のほか農業支援等の生活環境を改善する事業を行って参りました。そして11月に3度目のセネガル現地調査を行い、年度末の3月、4人のメンバーを現地に派遣し、地雷処理事業を開始しました。



現地調査チーム コマツセネガルにて



派遣チームのホテルでのミーティング

### (2) 成果の概要

カンボジアでは、タイ国境のバンテアイミアンチェイ州において地雷を処理し、安全化した地域で試験圃実演栽培や農業研修会等を行いました。N連による地雷処理事業は、技術移転を完了したものととして今回をもって終了しました。

ストゥントレン州では、クラスター弾除去機と人力を組み合わせた統合機械処理により、クラスター弾を安全化するとともに、試験農場における展示栽培、畑作を中心とした農業支援活動を実施しました。

コマツのABC事業では、安全化した土地の建機による均平化、農道等整備、学校建設などを行いました。

パラオにおいては、海中におけるERW探査・処理、並びに、港湾整備等の公共事業において発見されたERWの処理及びパラオのERW処理態勢の構築に対する支援を主な目的とする新たな事業を開始しました。

ミクロネシアでは、チューク環礁の戦没船内に滞留する油の回収や戦没船のモニタリング、チューク州職員等に対して潜水技術等の技術移転を行いました。

セネガルでは3月に現地入りしたものの、予期せぬトラブルに見舞われながらも少しずつ前に進んでいます。

#### 2025年度活動成果総括表

地雷・不発弾処理数 (クラスター子弹除く)	329 発
クラスター子弹処理数	85 発
同上安全化面積	304.4 ha (3.04 km <sup>2</sup> )
処理技術教育	46 名
危険回避教育	15,520 名 128 回
水田均平化	66.7 ha
農道整備	6.1 km
用水路整備	1.4 km
溜池外柵設置	142 m
小学校建設	2 校
戦没船状況調査	13 隻
爆雷処理	1 発
滞留油回収	約16 kl
潜水等技術移転	5 名

# ▶カンボジア王国

## 1 現地の声



### 浦野重之 現地代表①

地雷・不発弾処理、農業支援のため、日々基本に立ち返り、安全な活動が続けることが最も重要です。



### 横山圭介総務①

地雷全廃目標があらためて2030年12月末に設定されました。微力ですが、貢献したいと思っています。



### 中野雅仁専門家③・④

日本政府による地雷除去活動は終わりましたが、引き続き日本企業の支援で地雷除去を実施します。



### 堀井勝利専門家③

地雷処理事業も最終段階です。地域の環境が今後の発展のためにまた、地雷による被害者をなくすために。



### 住友紀允専門家③

基本に忠実な農業の実践と指導により、確実な成果を導き、農家の豊かな暮らしと生計向上に貢献できるよう努めます。



### 藤原彰専門家④

地域の皆さんが安全・安心に生活できるよう微力ながら処理活動等安全第一で活動します。



### 福栄重専門家④

心を新たに、安心して暮らせる場所の一つでも多く増えるよう、微力ながら力を尽くしてまいります。すべての人が笑顔で暮らせる地域を願って。



### 米司綾逸専門家④

ボカシ肥料の普及とキャッサバの増産に向けての栽培試験。農家取り組みやす方法を実践していきます。



### アム・ヴィトゥー プロジェクトマネージャー②

カンボジアの人々に対する日本の皆様の親切に感謝します。私たちはあなたの善行を常に覚えています。



- ①プノンペン
- ②バタンバン州
- ③バンテアイ ミアンチェイ州
- ④ストウントレン州

## 2 事業活動

### (1) バンテアイミアンチェイ州における地雷処理・農業支援活動（地図③）

#### ア 地雷処理活動

2025年はタイ国境沿いのマライ郡とスヴェイチェック郡にて地雷処理を実施しました。活動は2026年1月末で終了しました。

2025年7月からのカンボジアとタイとの国境紛争の勃発により、マライ郡における活動が影響を受けスヴェイチェック郡へ移転しました。また、8月半ば以降、活動の主要な部分を担っていたEOD（爆発物処理）チームが国境沿いの地域へ紛争後の不発弾等処理のため招集されたため、予定していた地雷原処理に影響が生じましたが、最終的には当初の目標を達成しました。



活動中の対人地雷処理機（DM）



危険回避教育（配布したノートは大人気）



住民からの通報を受け、不発弾を回収



地雷原見学者に説明をする専門家

#### イ 地雷・不発弾処理事業成果（2025年4月～2026年3月）

処理面積	対人地雷 (うち回収要請)	対戦車地雷 (うち回収要請)	不発弾 (うち回収要請)	危険回避教育 受講者
89.72 ha	85 個 (53個)	0個 (0個)	122発 (93発)	12,549 名 (98回)

## ウ 農業支援活動

2025年は、試験圃場での水稻実演栽培展示及び農業研修会の他、27戸の農家を主な対象として巡回指導を行い、約14 haの整地を通じて栽培技術の向上を図りました。結果として、ある指導農家はカンボジアでの平均収穫量である3トン/haの2倍以上に相当する7トン/haを収穫しました。また、4名の農業指導員を新たに養成しました



稲作巡回指導



豊かな収穫

## (2) ストゥントレン州における不発弾処理・農業支援活動（地図④）

### ア クラスター弾処理活動

2025年はラオスとの国境を接するボレイオウスヴァイセンチェイ郡でクラスター子弾で汚染された土地約200 haを安全化しました。この数値は、EODが国境紛争処理で招集されたため、当初の目標値を下回る結果となりました。2026年度もこの活動を続けます。



ドローンの操作の指導



クラスター子弾除去機による破砕処理



不発弾の爆破処分



住民に対する危険回避教育

## イ 処理事業成果(2025年4月～2026年3月)

処理面積	クラスター子弾 (うち回収要請)	不発弾 (うち回収要請)	対人地雷 (うち回収要請)	対戦車地雷 (うち回収要請)	危険回避教育 受講者
214.71 ha	85 発 (53 発)	135 発 (13 発)	2個 (1個)	0個 (0個)	2,971名 (30回)

## ウ 農業支援活動

試験農場では新たなスタッフに対して、ボカシ肥料の製造や追肥要領、菜園の運営要領等の指導を行いました。また、キャッサバの試験栽培および協力農家の畑においてボカシ肥料の効果を検証する試験栽培を実施しました。



試験農場職員全員集合



ボカシ肥料の製造

### (3) 農地整備支援事業 (地図②、③)

ア 農業土木作業：圃場の均平化、用水路・農道の整備により生産性と利便性の高い農地となります。



圃場の均平化



農道の整備



用水路の整備



溜め池に外柵を設置

## イ 農地整備支援事業成果（2025年4月～2026年3月）

バットアンバン州・バンテアイミアンチェイ州

内 容	実 績
水田均平化	66.7 ha
用水路建設	6,070 m
農道整備	1,350 m
溜池等の外柵整備	142 m
小学校建設	2 校

### 3 トピックス

カンボジア・タイ国境紛争に伴うCMAC（カンボジア地雷対策センター）のEODチームの活動

7月の紛争の和平成立直後、JMASのストゥントレン州での不発弾処理事業及びバンテアイミアンチェイ州での地雷処理事業に参加していた、それぞれのCMACの爆発物処理特技者から成るEODチームは、紛争地域住民の安全確保のため招集を受け、それぞれ、プレハビア州およびウドーミアンチェイ州の国境周辺地域で不発弾等の探査・処理処理活動を開始しました。

12月の紛争の勃発に伴い、国境至近地域での活動は中止せざるを得なくなりましたが、避難住民に対する危険回避教育は継続しました。和平成立直後、これらEODチームは国境地域に戻り、不発弾等の探査・処理処理活動を再開しました。これらの活動には、弾着地の安全確認、危険地域の表示などの活動も含まれています。

#### (1) 被害状況の例



砲撃により破壊された寺院



クラスター子弹の不発弾



焼けた乗用車



2,000 ポンド通常爆弾の不発弾

## (2) 紛争後のEODチームの活動



遺跡近くの弾痕を調査



住居近くの弾痕を調査



危険地域の表示活動



弾痕の調査 (ポイペト近郊)



122 mmロケット弾の回収



通報をくれた住民に危険回避教育

### (3) ベトナム戦争と今次国境紛争で使用された爆弾

年が替わってから、50年以上前使用された爆弾と、昨年使用された爆弾が相次いで発見されました。ベトナム戦争の際にホーチミン・ルート攻撃に使用されたと思われる爆弾の不発弾がJMASと活動を共にしているCMACのEODチームによって1月14日に回収され、また、昨年7月と12月に、それぞれ5日間と20日間の国境紛争でタイによって使用されたと思われる爆弾の不発弾が同じチームによって1月19日に発見されました。

これら2つの爆弾は使用された時期が50年以上離れていますが、いずれもMk82という同一型の500ポンド爆弾です。Mk82爆弾は1940年代末に開発され、21世紀も四半世紀を過ぎた現在においても使用されています。この爆弾は、開発当初は無誘導爆弾として投下されることが一般的でしたが、最近は、弾頭部に誘導装置を装着した誘導爆弾として使用されることがあります。しかしながら今回発見された後者は無誘導の「スマート」ではない爆弾でした。



メコン川中州で発見されたMk82爆弾



左爆弾の回収作業（1月14日）



プレハビア州で発見されたMk82爆弾  
（1月19日）



信管を取外した左爆弾  
（1月26日）

# ▶パラオ共和国

## 1 現地の声



**島田 正登 前現地代表（～2026.2.11）**

長年の目標であったヘルメットレックの爆雷処理を、任期中に完了することができ感無量である。パラオでの活動はまだまだ続くが、海の楽園を守るために、JMAS現地職員が安全に活動を続けてくれることを祈念する。



**田村 博義 現地代表（2026.2.12～）**

2022年3月パラオから帰国、この度4年ぶりに今度は現地代表として着任いたしました。ヘルメットレックの爆雷処理作業に現場で従事した経験を活かし、業務に取り組んで参ります。



**篠山 浩司 ERW専門家（主任）**

コロールレンジャーチームの技術移転も終了し、今後は共同作業となるため更なる技術向上、安全対策を互いに学び作業に従事していきたいと思う。



**橘 利至 ERW専門家**

ヘルメットレックでの爆雷処理作業が無事故で終了しパラオでのダイビング観光が可能になりました。マラカル湾内にはまだ爆発物が残っているので、今後はレンジャーを支援しながら活動を頑張っていきたい。



**星野 光男 パラメディック**

この1年間、事故もなく過ごせたことに感謝したい。運で事故が防げるわけではないので、日頃から安全管理、健康管理にアンテナを張って事故の未然防止に努めたい。



**井筒 直樹 ERW専門家（～2025.9.15）**

## 2 事業活動

### (1) 全般

2025年3月に、パラオ事業の目標の一つであった「ヘルメットレック」の爆雷処理を終了した後、引き続き、コロール州レンジャーに対する技術移転教育及びマラカル湾内のERW探査を中心として事業を進めました。8月にマラカル湾内の沈船「浦上丸」近傍で発見したERWの処理のために、事業を2か月間延長することとなりました。

また、パラオ政府としてのERW対処態勢の構築に対する支援、マラカル港の改修及び「みなと橋」の架け替え工事等の公共工事におけるERW処理支援等、JMASに対するパラオ政府からの事業継続の要望が強く、2026年2月から、これら支援事業を柱とした新たな事業を開始しました。

### (2) マラカル湾のERW探査

#### ア「浦上丸」

「浦上丸」は、戦時中に沈没した日本海軍の徴用工作船ですが、その近くで多数のERWが収納された2個の金属製コンテナを発見し、ERWの取り出し及び処理作業を実施しています。

コンテナは水深40m近い海底にあり、内部が狭い上に視界が悪く、極めて難易度の高い作業となりましたが、2026年3月までに、12cm砲弾36発、25mm機関砲弾10箱、25mm信管22箱等を取り出し、1基目のコンテナからのERWの取り出し作業を終了しました。



コンテナの外観



進入するJMASダイバー



積みあがったERW



取り出した12 cm砲弾



取り出した25 mm機関砲弾



取り出した25 mm信管の箱

## イ その他のERW処理

マラカル湾におけるERW探査を通じて、「浦上丸」以外にも、係維機雷と思われる機雷の一部を発見したほか、二式爆雷1発、38式小銃弾約11,000発、20mm機関砲弾38発、10cm砲弾2発を発見し処分しました。



係維機雷の一部



二式爆雷



38 式小銃弾



20 mm機関砲弾



10 cm 砲弾

### (3) パラオにおけるERW対処態勢の構築支援

パラオでは、国としての不発弾処理能力の向上に向けて、具体的な活動が活発化しており、関係者を集めたワークショップが2か月に1度の頻度で開催されるようになりました。JMASとしても、2026年2月から始まる新しい事業において、パラオのERW対処態勢構築に対する支援を目的の一つとしており、これらのワークショップに積極的に参加しています。



ワークショップ参加者



### 3 トピックス

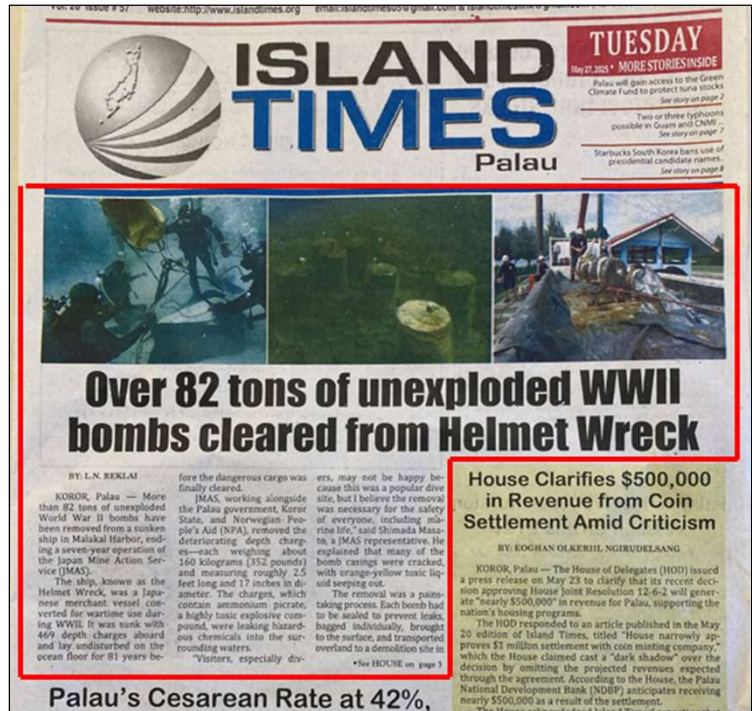
2025～2026年のトピックスを写真で紹介します。



座礁船により損傷したリーフの被害状況調査支援（4月5日）



「ヘルメットレック」の爆雷処理終了に関する説明会（6月5日）



「ヘルメットレック」の爆雷処理終了についての新聞報道（5月27日付「ISLAND TIMES」紙）

#### 大統領による「ヘルメットレック」視察（12月15日）



レンジャー隊員から事前の説明を受ける大統領



潜水中の大統領



大統領から直接お言葉をいただく島田代表



# ▶ ミクロネシア連邦

## 1 現地の声



### 内山 哲也 現地代表

私は2025年3月から、ミクロネシア連邦チューク州において、第2次世界大戦中に沈没した船舶からの油流出対策事業に従事しています。

戦後80年が経過し、老朽化した沈没船の崩落や油漏れのリスクが高まる中、現地の美しい海と人々の暮らしを守るため、安全を最優先に、可能な限り多くの油を回収することを使命として活動しています。



### 南 智行 専門家

チュークでの2年間は、あっという間に過ぎました。「この海や地域のために、もっとできることはないか」——そう自問しながら、日々の作業に向き合ってきました。限られた時間の中で、少しでも地域に貢献できるよう、引き続き取り組んでいきたいと思えます。



### 後閑 有治 専門家

約2年間、潜水専門家として本事業に携わってきました。幸いにも大きな事故なく作業を終え、日本へ帰国することとなりました。今後も現地チームが安全第一で活動を継続されることを、心より願っています。



### 福山 一徳 総務・会計担当

現在、後任となる総務・会計担当者を募集しています。現地での事業を支える重要な役割です。関心のある方は、ぜひJMASまでお問い合わせください。

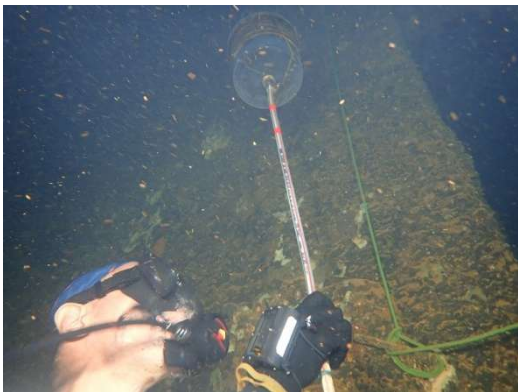


## 2 事業活動

### チューク州における戦没船油漏れ対策事業

ミクロネシア連邦チューク州の海には、第2次世界大戦中に沈没した多くの艦船が今も海底に残されています。これらの船には大量の燃料油が残留しており、船体の老朽化が進む現在、突発的な油流出による環境被害が強く懸念されています。JMASは、現地政府等と連携し、この貴重な海洋環境を守るため、戦没船からの油回収および継続的なモニタリングを実施しています。

- ・戦没船からの油回収作業の継続的实施
- ・昨年発生した「りおでじゃねいろ丸」における大規模油流出への対応
- ・戦没船の定期モニタリングによる早期異常検知
- ・2025年の年間油回収量：約16キロリットル



沈没船内での油の回収



回収した油の陸揚げ



外務省調査団の皆さん



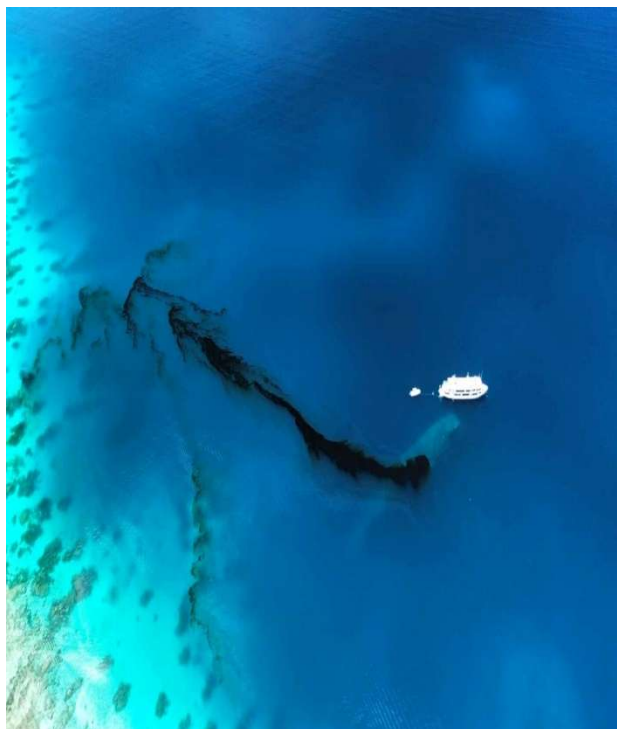
州政府、専門家との打ち合わせ



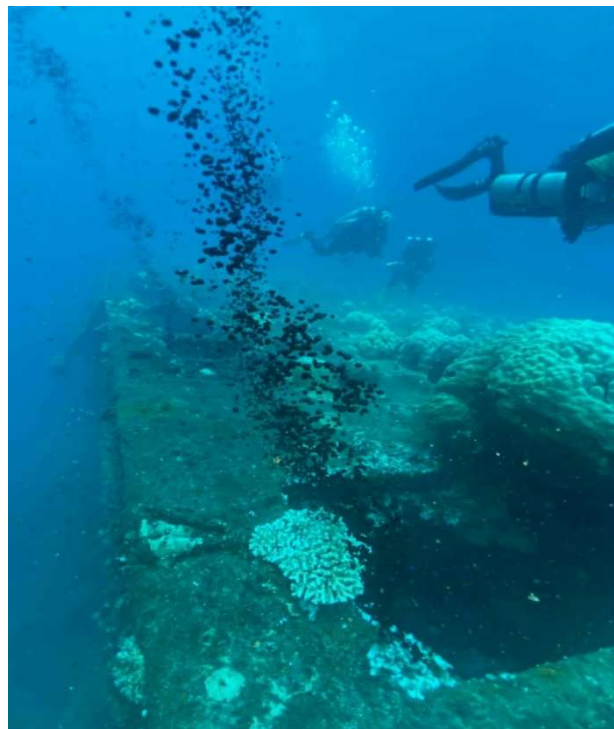
戦時中は戦艦大和、武蔵も停泊していました

### 3 りおでじゃねいろ丸漏油事案対処

2025年9月、ウマン島東方約500メートルの戦没船りおでじゃねいろ丸から、突然、大規模油流出が発生し政府は緊急事態宣言を発令しました。JMASは州政府の依頼を受け、油の流出の防止に協力しました。油の流出は徐々に収まり、現在は10日に一度程度、回収器に溜まった油を回収しています。戦後80年が経過し、このような事態が他の戦没船でも発生することが強く懸念されます。



上空から見た油流出



船体から流出する油



回収器を設置し油流出を防ぐダイバー

## 4 トピックス 「籠宮大使チューク来訪」

2026年1月28日（水）に籠宮大使がチュークを来訪。ケンボ・ミダ氏日本国名誉総領事就任カクテルレセプションが行われ、シミナ大統領もご臨席のうえ、ウエノ島在住の日本人が招待されました。また、大使はJMAS事務所等もご視察され、JMASの活動状況を高く評価しました。



在チューク日本国名誉総領事



シミナ大統領にご挨拶



島内の日本人の方々



籠宮大使ご夫妻ご来訪



ブルーラグーン博物館にて



JMAS作業場ご視察

# ▶セネガル共和国

## 1 現地の声



### 土生円徳 現地代表

セネガル事業の初年度として、足元をしっかりと固めながら、地雷不発弾処理プロジェクトを安全確実に進めていきます。セネガルチーム4人は、おやじ期から初老期へ差し掛かっておりますが、カザマンズ地方の救世主になれるようチーム一丸となって奮闘してまいります。



### 村上清志 総務会計

初めての海外事業に従事し、事務所の開設および生活基盤の整備や資金判断が難しい中ではありますが、適切な資金運用を行い、事業を円滑に進められるよう邁進します。



### 堀井勝利 EOD専門家（主任）

カンボジア王国よりセネガル共和国へ、まずは事業推進に尽力し、隊員の早期戦力化を目指します。カンボジアでの地雷処理技術を発揮させ、ジガンショール州カザマンズ地方の安心・安全の確保に貢献したいと思っております。安全第一で臨みます。



### 辰巳竜悟 EOD専門家

モロッコでのJICA海外協力隊経験とスリランカ北部での地雷処理活動で培った知見を活かし、安全第一で着実に取り組みます。カザマンズ地方の人々が安心して暮らせる環境づくりに貢献するため、事業終了まで現地に留まる覚悟です。



## 2 派遣準備

### (1) 第1、2回現地調査

2024年8月、2026年3月の2回にわたり、セネガル共和国の首都ダカール及びERW処理活動を予定する南部ジガンショール州において、岸川理事長以下が現地調査を実施しました。これにより、セネガル事業開始の最終判断に資する調査・調整を行うとともに、その後の事業計画策定・事業申請に必要な詳細情報を収集しました。



JCMのオープニングスライド

### (2) ESPOIR CASA プロジェクト

2025年度に入り、セネガル事業の実現に向け、大規模なプロジェクト体制を編成し、組織認定・各レベルのMOU・SOP等に関し、それぞれの担当ごとに検討を進めました。また月1回、セネガル側のカウンターパートとなるCNAMS（セネガル国地雷対策センター）と統合調整会議

(JCM) を行い、意見調整を図るとともに、“**ESPOIR CASA (カザマンズの希望)**” を共通の目標として、共に力を合わせることを確認しました

### (3) 第3回現地調査（11月7日~22日）

3回目となる現地調査を理事長以下6名で実施しました。

ダカールにおいては日本大使館や軍司令部、財務省等の政府機関を訪問し、またジガンショールにおいては実行組織のNC（ナショナルキャパシティ）と初めて対面での会議を実施しました。

更に、JMASの活動に対する協力や支援を得るために、カザマンズ地方の主要な地方政府レベルそして現地行政機関との首長、軍、警察等を表敬訪問し、この活動への強い期待を確認しました。そのほか同地域で先行活動をしていたHIやMAGからの協力を取り付けるなど、3月のチーム派遣に関わる構想を概ね確立することができました。



電気がない中、CNAMS本部にてNCとの初めての対面での会議



この地域を担当する陸軍COMZONE 5の司令官らとの面談

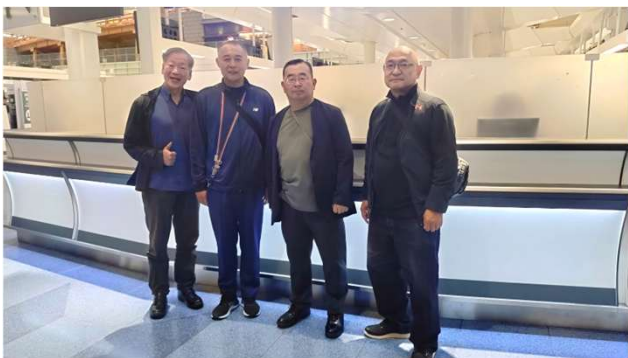


活動予定地域のエナンポールの市長と市民らとの会合。活動への熱い期待を感じました。

### 3 出国および活動状況

#### (1) 在京セネガル大使表敬

セネガル事業は3年事業として認められ、2月20日、土生代表以下4名は在京セネガル大使館にデュフ大使を表敬しました。大使からは、カザマンズ地方の悲願である地雷除去活動への謝意と助言や励ましの言葉をいただきました。



#### (2) 出国

事業開始直後の3月2日に土生チームはドバイ経由でセネガルに向け出国する予定でしたが、その直前にイラン情勢が急激に悪化したため、仕切り直しとなりました。再調整を経て、3月10日のパリ経由便で、セネガルに向け出国しました。

#### (3) トラブルに見舞われながらジガンシヨールでの活動準備

セネガル国内移動予定だったフライトが、航空会社の都合による運航停止となり、急遽、陸路で9時間かけ、ダカールからガンビアを通過してジガンシヨールへ移動しました。しかし、入居予定のアパート改修工事遅延により、当初予定より約1週間遅れて、3月23日ようやく現地事務所の立ち上げを完了しました。現地チーム土生代表以下4名は、“**ESPOIR CASA**”の実現を目指し、鋭意準備を進めています。



基礎訓練を実施予定のISRA農業試験場を確認すると共に、既に2025年11月に運び込まれていたコマツの対人地雷除去機を確認



3月25日、ジガンシヨールにてカウンターパートであるNCメンバーと初対面し、自己紹介と当面の予定について意見交換を行いました。

# ▶本部

## 1 全般

### (1) 第23回通常総会

6月18日、第23回通常総会を開催し、2024年度の事業成果および2025年度の事業計画等について承認されました。また理事長より年度内に開始を予定しているセネガル共和国における地雷処理事業“ESPOIR CASA（カザマンズの希望）”について、その概要を説明致しました。総会後の懇親会では、来賓の第3代会長折木良一様より心温まるご挨拶をいただき、現役の職員一同は大いに励まされました。



第23回通常総会



理事長による説明



折木第3代会長のご挨拶

### (2) 公明党地雷除去支援PJヒアリング



JMASはじめ諸団体の活動にコメントする山口那津男党常任顧問。右は公明党議員（写真提供：参議院議員高橋光男事務所）

10月2日、参議院議員会館にて行われた公明党の地雷除去支援プロジェクトチームの会合に、JMASは難民を助ける会、地雷廃絶日本キャンペーンとともに招かれ、活動内容について報告しました。

20年以上にわたりカンボジア等において現地の人と共に地雷除去等を行うJMASの活動に対し、山口那津男党常任顧問や現職議員の方々から評価と激励のお言葉をいただきました。

## 2 広報・研修対応

### (1) 近畿大学教員のインタビュー対応

9月2日、近畿大学の英語教員のロバート・シェリダン氏らの来訪を受け、JMASの活動に関するインタビューに応じました。シェリダン氏らは、社会貢献活動に取り組む組織の実例をもとに英語教材を作成し、学生が主体的に考えながら「生きた英語」を学ぶことを狙いとした教育活動に取り組んでいます。



近畿大シェリダン氏（右）と兵庫県立大の田中キャサリン氏（中）

## (2) グローバルフェスタ2025出展

国際協力イベント「グローバルフェスタ2025」（9月27日～28日：東京・新宿住友ビル三角広場）にブースを出展しました。今年は「世界を変える、あなたの一歩、プラス1の国際協力」をテーマとし、国際協力に関わる様々な団体（NGO、NPO、機関、企業、大学等）約180団体が参加し、約1万4000人の来場がありました。

JMASブースでは、「造ろう！地雷・不発弾のない大地」の幟とともに、テーブルに各種の地雷・クラスター弾の模型、壁にJMASのカンボジアはじめパラオ、ミクロネシアにおける活動の写真を掲示し、多くの来場者に足を止めて頂きました。特にセーラー服姿の女子中学生グループの来訪が多く見られましたが、これは学校授業の一環として、後日、成果をプレゼンテーションする予定とのことでした。またウクライナ情勢への関心の高まりを受け、ロシア製のバタフライ型散布地雷の模型と解説動画に注目が集まりました。



(上および右) ブースで足を止める人々と説明のようす

## (3) 外務省フォトコンテスト入賞

グローバルフェスタに合わせて実施された外務省フォトコンテストにおいて、カンボジアの中野専門家のタイトル「危険回避教育」が入賞しました。小学生の女の子が、真剣な眼差しでJMASノートを見つめる様子が印象的である点が評価されました。この写真は2025年度版の開発協力白書にも掲載される予定です。



## (4) 陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会様による広報

タイトル「危険回避教育」



JMASの活動紹介

陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会(会長：寺田英四郎様)は、長年にわたり演奏会の機会を捉えて、当会の活動を積極的に広報して頂いています。

今年も演奏会の9月20日の伊丹のファミリー・コンサートにおいてパンフレットに紹介記事を掲載頂くとともに、会場ではパネルや地雷模型を展示し当会の活動を紹介しました。また、併せて募金活動も実施させて頂き、多額のご寄付を頂きました。

## (5) 和光中学校総合学習「平和について考える」への協力



探知器を体験する生徒さんたち

10月23日、来訪した和光中学校の3年生4人に対しJMASの地雷除去活動等について説明するとともに、インタビューに応じました。生徒らは、戦争後も復興を妨げる地雷の危険性と平和の大切さを学び、後日、自分たちの考えをスライドにまとめ、学級発表会の場で発表しました。

## (6) カンボジアとのオンラインセミナー

12月13日（土）、JMASは朝日小学生新聞社主催の取り組みに参加し、全国の約500名を超える児童を対象に、「地雷のない故郷で平和な暮らしを」をテーマに、カンボジアにおけるJMASの活動や、現地小学校の様子などを紹介しました。

このオンラインセミナーを受講した大阪府富田林市の利晶学園初芝富田林中学校では、2年生が市内の各中学校で募金活動を実施しました。2月13日（金）には、吉村善美富田林市長、植野均教育長を訪問し、「カンボジアの地雷を一つでも多く取り除き、子供たちが安心して学校へ通える未来をつくりたい」と、出来るだけ多くの募金を集めてJMASの地雷除去活動等を支援したいとの生徒の熱意ある説明を行い、富田林市教育委員会の後援を得ることになりました。5月には市内の9つの中学校で募金活動を実施します。

また、12月のオンラインセミナーのファシリテーターを務めた兵庫県たつの市立神部小学校の石堂裕校長からの招きにより、3月12日（木）に同校の5年生・6年生127名を対象に、ふり返り教育を実施しました。児童からは「まだ色々な国に地雷や不発弾があって、子どもたちが死んでしまうから、その地雷や不発弾を取り除き、“マイナスからゼロへ”。地雷や不発弾を取り除いただけではなく学校を作ったり、ノートや鉛筆を支援したりより良い暮らしにしていくことが、“ゼロからプラスへ”だと分かり、心に残りました。」など多数の意見が寄せられました。

昨年から開始したオンラインセミナーも「知ること」から「行動すること」に進化してきています。



初芝富田林中学校2年生による募金活動



神部小学校5年生・6年生に地雷の模型を手にとって説明

### 3 新たな取り組み

#### (1) 陸上自衛隊との勉強会

陸上自衛隊施設学校及び武器学校等と合同勉強会を7月25日および2月26日の2回にわたり実施しました。本勉強会は、2年前から開始されたもので、地雷・不発弾処理についての発表、意見交換を通じて相互理解を深めることを目的としています。今回、当会からは今春より開始されるセネガル事業の紹介及びソロモン諸島能力構築支援事業への協力の成果などについて説明しました。



合同勉強会

#### (2) ソロモン諸島関連

防衛省及び陸上自衛隊の要請に基づき、防衛省ソロモン諸島に対する能力構築支援事業（不発弾処理）に、2回にわたり協力しました。本事業はソロモン諸島国家警察の能力向上と安全確実な任務遂行に寄与するとともに、ソロモン諸島国民の不発弾等による不慮の事故を防止することを目的として、2年前から開始された事業です。

##### ア 招聘事業への協力（10月22日）

JMAS事務局において、日本に招聘されたソロモン諸島国家警察不発弾処理局3名に対し、JMASの活動の概要を説明するとともに、意見交換を実施しました。ソロモン諸島は第二次世界大戦の激戦地の一つ、ガダルカナル島を有し、当時の不発弾による不慮の事故が発生しています。

当日は、ソロモン諸島の招聘者に加え、内局・陸幕関係者も同席しブリーフィング、金属探知機の紹介、意見交換などを実施しました。

##### イ 派遣事業への協力（2月9日～16日）

第3回目となるソロモン諸島への派遣に際して、内局・陸幕・武器学校の職員とともに、当会からは理事1名（六車理事）を派遣しました。

JMASがカンボジア等得た一般市民に対する不発弾の危険回避教育の要領について、ソロモン諸島国家警察不発弾処理局の1コチーム8名に対して紹介し、知見の共有を図りました。

その後、ソロモン国家警察はその知見を活用して住民に対して危険回避教育を実施し、不発弾による事故の未然防止に努めました。



事務局でのブリーフィング



ソロモン諸島での教育

# ▶ 会勢概況（令和8年3月31日現在）

会 員	個人正会員 2 1 6 名	法人正会員 3 8 社	賛助会員 3 2 名
寄付件数	1 2 6 件		

## 特別協力企業・団体一覧

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	株式会社IHIエアロスペース	36	新陽株式会社
2	I O S 株式会社	37	有限会社ステーション
3	株式会社IDホールディングス	38	株式会社ステップ
4	青森駐屯地修親会	39	成城高等学校
5	明野駐屯地修親会	40	全国防衛協会連合会女性部会
6	アサガミ株式会社	41	仙台駐屯地業務隊OB会
7	株式会社朝日学生新聞社	42	仙台駐屯地修親会
8	朝日コンサルタント有限公司	43	善通寺駐屯地修親会
9	旭精機工業株式会社	44	ダイキン工業株式会社
10	有限会社アップワールド	45	大和探査技術株式会社
11	アトリエてん有限公司	46	高根東小学校
12	株式会社アルカディア	47	弾道学研究会
13	伊丹駐屯地曹友会（個人）	48	中国化薬株式会社
14	一四会	49	中部方面曹友会
15	岩手駐屯地修親会・曹友会	50	土浦駐屯地修親会
16	玩基貿易株式会社	51	豊田通商株式会社 モビリティ本部
17	小原台クラブ	52	新潟県立大学国際ボランティアサークル RUENG
18	春日井駐屯地修親会	53	日進東中学校
19	株式会社絆フレンズ	54	日本電気株式会社
20	株式会社北日本銀行	55	パブリックソース財団
21	近畿大学農学部	56	深田サルベージ建設株式会社 東京支社
22	株式会社グッドウ	57	藤倉航装株式会社
23	株式会社クレスコ one%club	58	富士修親会
24	高知商業高校	59	富士通株式会社
25	コマツ	60	公益財団法人 防衛基盤整備協会
26	コマツ サステナビリティ推進本部 地雷除去プロジェクト室	61	一般財団法人 防衛弘済会
27	堺浜寺ライオンズクラブ	62	マイクロン・コー株式会社
28	相模原橋本ロータリークラブ	63	前川原駐屯地修親会
29	NPO法人サンタピアップ	64	三菱重工業株式会社
30	三木会	65	株式会社ミレデザインズ
31	島松駐屯地修親会	66	株式会社武蔵富装
32	尚友会	67	陸栄会
33	昭和コンクリート工業株式会社	68	陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会
34	伸誠商事株式会社	69	レディス枚方2 1
35	神町駐屯地修親会		

## 寄付型自動販売機協力企業

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	アサガミ 株式会社	5	株式会社 通信設備エンジニアリング
2	アサガミプレスセンター株式会社	6	昭和金属工業 株式会社
3	アサガミプレスいばらき株式会社	7	マイプリント株式会社
4	旭精機工業株式会社		

# ▶ ご支援のお願い

JMASの活動は、皆様からのご支援に支えられています。  
引き続きご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

## ○ 正会員、賛助会員として参画頂ける方

正会員	賛助会員
個人：1万円／年	1口千円／年(変更検討中) (税法上の「寄付金控除」の対象です)
法人：1口5万円／年	

(注)

正会員：当法人の目的に賛同して入会した個人及び団体で、総会において議決権を有します。

賛助会員：法人の事業を賛助するため入会した個人及び団体で、総会において議決権を有しません。

## ○ ご寄付を頂ける方

ご寄付
3千円以上※
税法上の「寄付金控除」の対象です

※当会は認定NPO法人ですので税法上の寄付金控除対象です。

なお、「認定更新申請」の条件を満たすためには、3千円以上のご寄付が必要となります。  
ご協力をよろしくお願い致します。

## ○ ご入会・ご寄付の方法

JMASホームページで、「ご寄付・ご支援のお願い」をクリックし、画面の指示に従ってお手続きをお願いします。ご寄付は上部の「ご寄付」からも行えます。

<https://www.jmas-ngo.jp>



## ○ お振り込み方法

### 郵便振込の場合

口座名：特定非営利活動法人  
日本地雷処理を支援する会  
口座番号：00170-1-13709

郵便振込用紙(赤色)をご利用のうえ、ゆうちょ通帳またはカード扱いでお振り込み頂く場合、手数料はかかりません。

### 銀行振込の場合

銀行名：三菱UFJ銀行  
支店名：市ヶ谷支店(店番014)  
口座名：特定非営利活動法人  
日本地雷処理を支援する会  
(仮名標記「トクテイヒエイリカツドウハウジン ニホンジライショリヲシエンスルカイ」)  
口座番号(普)：1320125

## 他にもこんなご支援の方法があります

### ☺書き損じ葉書をお送り下さい

書き損じ葉書郵送用として、返信用封筒をお送り致します。

### ☺寄付型自動販売機の設置にご協力下さい

JAMS寄付型自動販売機の売上げの一部は、当会への寄付となり、世界の地雷・不発弾処理活動に活用させていただきます。



- 設置、置き換え無料です。
- 手間や費用はかかりません。
- 全国何処でも設置可能です。
- 寄付型自動販売機設置に関するお問い合わせ先  
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会  
フリーダイヤル：0120-937-650  
サイドアドレス：<http://kjf.or.jp/>

## ▶研修・見学・講演・取材申し込み受付



白鷗大学での出前講話

- ・東京本部における研修
- ・海外現地代表事務所における研修
- ・海外の処理現場等における見学
- ・講演会の実施
- ・取材対応等:

ホームページの「お問い合わせ」の「研修・見学・講演・取材申し込みについて」をクリックし、画面の指示に従ってお申し込みください。

お問い合わせ先

〒 :160-0002

住所：東京都新宿区四谷坂町  
9番9号 三廣ビル2階

TEL :03-6261-7851

Email：[jmas-hq@jmas-ngo.jp](mailto:jmas-hq@jmas-ngo.jp)

URL：<https://www.jmas-ngo.jp>



笑顔がすき  
人間がすき  
平和がすき



認定特定非営利活動法人

# JMAS 日本地雷処理を支援する会 Japan Mine Action Service

〒 :160-0002

住所：東京都新宿区四谷坂町  
9番9号 三廣ビル2階

TEL :03-6261-7851

Email：[jmas-hq@jmas-ngo.jp](mailto:jmas-hq@jmas-ngo.jp)

URL：<https://www.jmas-ngo.jp>



アクセス

JR 市ヶ谷駅から徒歩7分

都営地下鉄新宿線 曙橋駅から徒歩7分